



学習のねらい

- (1) 国分寺・国分尼寺が築造された理由を考えさせる。
- (2) 発掘調査で検出された遺構や出土した遺物をとおして、阿波国分尼寺の伽藍がらんを想像させる。

解説

(1) 国分寺と国分尼寺

奈良時代天平13年(741年)、聖武天皇は、国をおさめるために国ごとに僧寺と尼寺を建立するという「国分寺建立の詔」を出しました。大和国(現奈良県)の東大寺・法華寺は総国分寺・総国分尼寺とされ、全国の国分寺・国分尼寺の総本山と位置づけられました。また国分寺・国分尼寺は、律令制における地方を治めるための拠点である国府(地方役所)のそばに建立こんりゅうされました。政治と仏教が密接に関係していた奈良時代の様子がうかがえます。

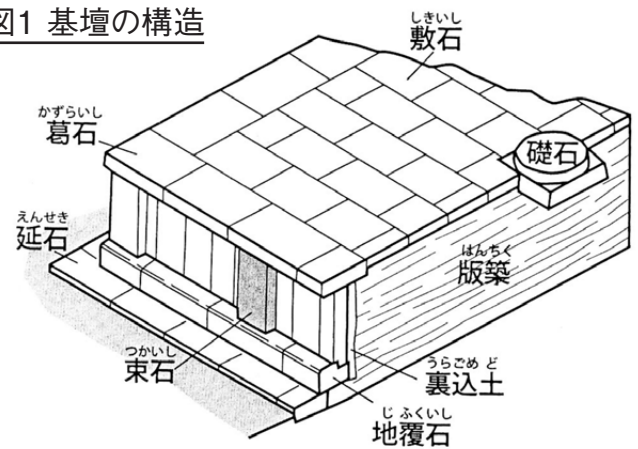
(2) 阿波国分寺・国分尼寺の伽藍

古代寺院には、天皇が建立した国分寺・国分尼寺をはじめとする官営寺院や、有力な豪族が建立する寺院などがあります。また、寺院は宗派や時代によって様子が異なります。塔や金堂、講堂、門、回廊など、お寺の主要な建物の配置を伽藍配置がらんはいちといい、お寺の建立された時期や特徴を示しています。

阿波国分尼寺は、お寺の中軸線上きたもんに北門、金堂が並び伽藍配置で、東西158m(約2万5000㎡)の寺域が想定されています。1970年、阿波国分尼寺の寺域において宅地の新築工事がおこなわれたときに、凝灰岩や結晶片岩の巨石が見つかりました。これに伴い徳島県教育委員会によって発掘調査がおこなわれ、様々な遺構や遺物が出土しました。遺構として金堂基壇きだんの地覆石じふくいしが検出され、壇正積基壇だんしょうせききだんというもっとも完成された技術が用いられていることがわかりました(図1)。このほか、北門跡、中門跡、溝・築地痕跡が見つかりました。次に遺物として、多量の瓦が出土しました。形の特徴から内ノ御田瓦窯跡(徳島市入田町)で焼かれた可能性が指摘されています。このほか、地福寺(石井町)の境内に結晶片岩製の礎石いしが保存されています。阿波国分尼寺跡は、1973年(昭和48年)に国史跡に指定されました。

また、国分寺は不明な点が多いものの境内の一角に塔の心礎が保存されています(パネル写真3)。庭園は、2000年(平成12年)、名勝として国の指定を受けました。

■図1 基壇の構造



■図2 阿波国分寺・国分尼寺の位置



■図3 国分尼寺の伽藍

